

戦争が人々から何を奪ったのか



イラクの子供たち＝イラク南部の港町
バスマラの街頭で77年、吉原茂さん撮影

イラクが平和だった77年4月～80年10月、日本企業の電気技師として現地で過ごした吉原茂さん(63)＝長野県信濃町＝が人々と大地を撮影した写真展「イマジンイラク～未来の記憶」が24日～10月3日、京都市左京区のカフェ「かぜのね」で開かれる。入場無料で、24日と10月2日にトークイベントもある。

生き生きとした人々の姿や美しい水辺の様子などを収めた写真約40枚を展示する。「自分たちの国造り、近代化にまい進していた時期で、どの表情も明るかった」と吉原さん。イベントは、03年からイラク支援を続け、04年に武装グループ

トークイベントも開催

に拘束された経験もある高遠菜穂子さんの報告会「イラク戦争なんだつたの？」(24日午後6時半～8時半)▽吉原さんと岡真理・京都大大学院教授(現代アラブ文学)のトーク「棗椰子(なつめやし)の木陰で」(10月2日同)。いずれもカンパ制で24日は要予約、2日もできるだけ予約を。

主催の実行委は「写真が伝える穏やかなたたずまいから、現在の困難は想像もできない。戦争がイラクの人々から何を奪ったのかを具体的に知ることで、戦争のない未来への一步につなげたい」と話している。

写真展は午後0時～8時半で、27、28日は休場。問い合わせ・予約は実行委の水野さん(090・2044・4544)へ。詳細はブログ(<http://imagineira.q.seesaa.net/>)で。

【太田裕之】

写真展「イマジンイラク」24日開幕

左京区